

行田市（16校）

運営委員会名	行田市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計17名)	放課後子ども教室コーディネーター11名、小学校長2名、PTA代表1名、社会教育関係者1名、自治会長1名、ひとつくり支援課長1名		
検討内容	放課後子ども教室の運営状況 活動内容についての情報共有 安全管理、課題解決のための協議 等		
放課後子供教室 実施教室数	11教室	放課後児童クラブ 箇所数	17箇所
対象学区	11校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 9教室 連携型 2教室
主な対象学年	1～3年	平均開催日数	15日
総登録児童数	463人	総ボランティア数	128人
平均参加児童数	350人	平均スタッフ数	7人/教室
コーディネーター数	11人		

教室紹介

教室名	泉小学校わくわくクラブ	活動場所	図工室・体育館・校庭
参加対象	1～3年生	参加者数	登録児童数 79人 1日平均参加者数 39人
活動内容	紙芝居、シャボン玉づくり、かるた取り、ドッチビー、折り紙、けん玉づくり 等		
連携団体	民生・児童委員会、自治会		
活動の成果	<p>今年度からスタートした「泉小学校わくわくクラブ」では、学校運営協議会委員長にコーディネーターを委嘱し、学校・家庭・地域の連携を深めた活動を行っている。スタッフは、地区の民生・児童委員や自治会長のほか、学校応援団で読み聞かせなどの学習支援に携わっている方などの地域住民で構成し、コーディネーターを中心として円滑な運営ができています。</p> <p>参加児童たちは、普段なかなか体験できない昔遊びや創作活動に夢中になって取り組んでおり、スタッフも子供たちに寄り添いながら活動を支援している。子供たちは活動終了後、いつも笑顔いっぱい帰宅している。校地内にある放課後児童クラブの施設には、コーディネーターとスタッフが対象児童を連れていき、児童クラブ支援員との連携を図っている。</p>		



【シャボン玉づくり】

こんなに大きいシャボン玉ができました



【ぎょうだ郷土かるた】

かるたを通してふるさと行田を学びます

春日部市(23校) ※義務教育学校を含む

運営委員会名	春日部市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計12名)	小学校長、社会教育委員、自治会連合会副会長、青少年育成推進員、PTA連合会理事、生涯学習市民推進員、共栄大学教授、学識経験者、保育課主幹、指導課長、公民館長		
検討内容	放課後子ども教室の実施について 学校との連携について		
放課後子供教室 実施教室数	23教室	放課後児童クラブ 箇所数	23箇所
対象学区	23校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 23教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	10日
総登録児童数	2123人	総ボランティア数	登録制ではない
平均参加児童数	1587人	平均スタッフ数	29人/教室
コーディネーター数	25人		

教室紹介

教室名	正善小学校放課後子ども教室	活動場所	体育館・校庭
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 110人 1日平均参加者数 108人
活動内容	正しい姿勢講座、忍者遊び、なわとび遊び		
連携団体	健康管理士一般指導員、自治会、PTA等		
活動の成果	<p>正善小学校放課後子ども教室は、平成23年度に市内で5校目に開講した。現在は、PTAを中心に学校と連携し、全学年の児童が5時間授業の日の放課後を利用し、地域の方々の参画も得て活発に活動している。</p> <p>正善小学校放課後子ども教室は低学年の比率が多いものの、高学年の参加もあり、異学年の児童が皆で活動し、高学年の児童が、地域の方々と一緒に低学年の児童の面倒をみるほど、限られた環境以外での交流の機会の少ない現代において、貴重な交流の場としての機能を果たしている。</p>		



【正しい姿勢教室】

カイロプラクターによる指導



【忍者教室】

忍者修行

羽生市(11校)

運営委員会名	羽生市立小学校放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計44名)	実施校区の学校の代表者6名、放課後児童クラブ関係者5名、実施校区住民の代表者6名、PTAの代表者6名、社会教育関係者6名、児童福祉の代表者3名、教育長推薦12名		
検討内容	昨年度の活動報告、来年度の募集について、来年度の活動内容について		
放課後子供教室 実施教室数	6教室	放課後児童クラブ 箇所数	6箇所
対象学区	6校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 4教室
主な対象学年	4～6年		連携型 1教室
総登録児童数	98人	平均開催日数	29日
平均参加児童数	76人	総ボランティア数	30人
コーディネーター数	6人	平均スタッフ数	5人/教室

教室紹介

教室名	羽生北小学校放課後子ども教室	活動場所	余裕教室、体育館
参加対象	4～6年生	参加者数	登録児童数 12人
			1日平均参加者数 11人
活動内容	宿題、自主学習、卓球、リレー、二人三脚、バスケットボール、大縄跳び、マット運動、和太鼓体験教室、スポーツ推進委員による出前講座、調理実習、救命救急講習など		
連携団体	羽生市消防本部、スポーツ推進委員、ボランティア団体むじなっ子		
活動の成果	<p>参加児童やその親、指導員とのコミュニケーションを活発にし、児童が興味を持つような多彩な活動内容を提供できた。本教室では、1日の活動の中で「メイン活動」を毎週実施している。全員で一つの活動に取り組むことが、参加児童一人ひとりの内面の成長に繋がっている。</p> <p>普段の活動に加え、夏休みにも特別なイベントを開催している。スポーツ推進委員やボランティア団体むじなっ子の協力もあり、羽生市体育館にてニュースポーツ教室を開催することができ、異年齢での交流も行われた。また、公民館にて料理教室や救命救急講座を行い、日頃では経験できない学びの場を提供することができた。</p>		



【和太鼓体験教室】

羽生太鼓みやびの皆さんによる体験教室



【救命救急講座】

救命救急の方法を学びました

久喜市(23校)

運営委員会名	久喜市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計41名)	社会教育委員代表1名、市内校長会代表1名、スポーツ推進委員代表1名、学童保育運営協議会代表1名、スポーツ少年団代表1名、子ども会育成連合会代表1名、民生委員・児童委員協議会代表1名、レクリエーション協会代表1名、PTA連合会代表1名、婦人会連合会代表1名、青年会議所代表1名、生涯学習推進者5名、各教室代表23名、生涯学習課長、保育課長		
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年間スケジュールにおける各教室見学会や情報交換会、現地研修会等の企画・運営、開催について ・15周年記念事業について 		
放課後子供教室 実施教室数	23教室	放課後児童クラブ 箇所数	21箇所
対象学区	23校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 17教室 連携型 4教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	17日
総登録児童数	3247人	総ボランティア数	2709人
平均参加児童数	1311人	平均スタッフ数	118人/教室
コーディネーター数	28人		

教室紹介

教室名	太田っ子ゆうゆうプラザ	活動場所	特別教室、校庭、体育館、農家の畑
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 211人 1日平均参加者数 87人
活動内容	あみもの、囲碁、ミニテニス、かがく、絵手紙、太田プロ、自然観察、金管・打楽器・フラッグ&メジャーバトン、フラタヒチアンダンス、盆おどり、折り紙、グラウンドゴルフ、手芸、そろばん、三味線、ボール遊び、お習字、ティーベースボール、バドミントン、剣道、じゃがいも掘り、木工、料理、ロボット等		
連携団体	ボーイスカウト(不定期)		
活動の成果	<p>「つながろう、なかまたち!」というスローガンのもと、6月17日に開校式が行われ、11年目を迎えた。今年度は、全校児童477人中44.2%の211人が参加した。6年生で、5年以上参加した児童が20名おり、継続表彰を行った。高学年の参加児童数は低学年に比べると低いが、ここ数年全体で40%台の児童が参加している。体験を重視する年数回の講座が多くなったことから、開設5年目から講座数が20を超え、幅広い内容を学ぶことができるようになっている。「金管・打楽器・フラッグ&メジャーバトン」は卒業生と校長が指導者となって、新たに始まった講座の一つである。地域の方が指導者として参加するほか、開設当初から継続して参加している方も多く、30名の方が11月23日の久喜市放課後子ども教室開設15周年記念式典で表彰された。</p>		



【校長先生による講座】
校長先生による金管・打楽器の講座



【かがくの講座】
新講座のロボットを組み立てよう

三 郷 市 (1 9 校)

運 営 委 員 会 名	三郷市放課後子ども教室運営委員会		
構 成 役 職 (合 計 1 0 名)	地域住民の代表、社会教育経験者3名、放課後子ども教室代表3名、PTA代表、学校教育担当課長、子ども支援課長、学校教育関係者		
検 討 内 容	放課後子ども教室 運営方法について 今年度の活動状況及び来年度の活動予定について		
放 課 後 子 供 教 室 実 施 教 室 数	5教室	放 課 後 児 童 ク ラ ブ 箇 所 数	19箇所
対 象 学 校 区	19校区	一 体 型 ・ 連 携 型 実 施 教 室 数	一体型 2教室 連携型 0教室
主 な 対 象 学 年	全学年	平 均 開 催 日 数	55日
総 登 録 児 童 数	182人	総 ボ ラ ン テ ィ ア 数	33人
平 均 参 加 児 童 数	75人	平 均 ス タ ッ プ 数	4人/教室
コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	4人		

教 室 紹 介

教 室 名	さくらんぼキッズ	活 動 場 所	余裕教室、体育館、校庭
参 加 対 象	全学年	参 加 者 数	登録児童数 21人 1日平均参加者数 20人
活 動 内 容	宿題、読み聞かせ、水遊び、ポッチャ体験、豆まき合戦 等		
連 携 団 体	PTA関係者、地域住民		
活 動 の 成 果	さくらんぼキッズでは、毎回30分の宿題タイムの後、体験活動を楽しむプログラムを実施している。体験活動では、竹水鉄砲の工作、校庭での水遊び、地域の方々に教えていただくポッチャ体験、豆まき合戦等を行った。児童にとって、年齢の離れたスタッフや地域のボランティア、他学年の児童との交流は、貴重な世代間交流の場となった。		



【30分の宿題タイム】

分からないところはスタッフに教えて
もらえる宿題タイムを設けています



【のびのびポッチャ体験】

スタッフに地域の方々の協力を得て
体を動かしました

蓮田市（8校）

運営委員会名	蓮田市放課後子ども教室推進事業運営委員会（蓮田市社会教育委員会）		
構成役職 （合計7名）	蓮田市小中学校長会、子ども会、スポーツ推進委員、民生委員・児童委員、市議会議員（学識経験者）、ボーイスカウト、NPO子育て支援団体		
検討内容	放課後子ども教室の活動内容について 社会教育について		
放課後子供教室 実施教室数	3教室	放課後児童クラブ 箇所数	12箇所
対象学区	3校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 3教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	20日
総登録児童数	136人	総ボランティア数	28人
平均参加児童数	86人	平均スタッフ数	9人/教室
コーディネーター数	3人		

教室紹介

教室名	ひらりんすたでい	活動場所	平野小学校 ひらのっころー ム（余裕教室）
参加対象	2年生から6年生	参加者数	登録児童数 34人 1日平均参加者数 29人
活動内容	学習サポート		
連携団体	自治会・平野小学校PTA		
活動の成果	<p>「ひらりんすたでい」では、小学校の授業の復習を中心に、子供たちに学習の基礎・基本を教えている。学童と重複利用している児童もいる。</p> <p>大学生や、元学校教諭の方々から楽しく教えてもらい、子供たちにとって有意義な学びの場を提供することができた。一人で勉強することが苦手な子供たちにも、同じ小学校の児童や、地域住民の方と交流することにより、安全で安心な放課後の居場所づくりができています。</p> <p>今年度は、漢字や計算問題が中心だったが、来年度は読解力や想像力が身につくよう、内容の充実を図っていきたいと考えている。</p>		



【1対1での学習】

元教諭の方より各々教えてもらう



【個人での自習】

自分のペースで学習する

吉 川 市 (8校)

運 営 委 員 会 名	吉川市放課後子ども教室事業運営委員会		
構 成 役 職 (合 計 8 名)	学童保育室関係者1名、放課後子ども教室関係者1名、社会教育団体構成員1名、PTA関係者1名、三輪野江小学校教頭1名、教育委員会職員2名、こども福祉部保育幼稚園課職員1名		
検 討 内 容	1年間の活動内容について(実施プログラムの説明) 放課後子ども教室職員マニュアルについて 学童保育室利用者の参加時間について 安全確保、保護者迎いの場所の確認について		
放 課 後 子 供 教 室 実 施 教 室 数	1教室	放 課 後 児 童 ク ラ ブ 箇 所 数	8箇所
対 象 学 校 区	1校区	一 体 型 ・ 連 携 型 実 施 教 室 数	一体型 1教室 連携型 0教室
主 な 対 象 学 年	全学年	平 均 開 催 日 数	20日
総 登 録 児 童 数	68人	総 ボ ラ ン テ ィ ア 数	7人
平 均 参 加 児 童 数	57人	平 均 ス タ ッ フ 数	7人/教室
コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1人		

教 室 紹 介

教 室 名	三輪野江小学校放課後子ども教室	活 動 場 所	三輪野江小学校 ふれあいホール・校庭・体育館
参 加 対 象	全学年	参 加 者 数	登録児童数 68人 1日平均参加者数 57人
活 動 内 容	タブレット端末を使った学習、音楽鑑賞会、ドッジボール教室、ハンドボール教室、サッカー防災教室、ダイバーシティ・スポーツ体験、華道教室、日本舞踊教室、美術教室、木工教室、ポッチャ教室、タグラグビー教室、スナッグゴルフ、宿題		
連 携 団 体	なし		
活 動 の 成 果	<p>コーディネーター、サポーターの中にPTA関係者がいることで、児童の把握がとてもしやすくなっている。また、保護者の迎えの際にも、お互いに顔見知りのため児童の引き渡しがスムーズである。</p> <p>市内の社会教育団体やスポーツ推進団体に所属するサポーターに実施プログラムのアドバイスや協力を積極的にしてもらっている。実施プログラムは多様であり、音楽鑑賞会やハンドボール教室などは外部からプロの講師を招き、子供たちに本格的な体験を提供することができた。</p>		



【美術教室】
市の美術協会の方と水彩画を体験



【ポッチャ教室】
初めて体験するポッチャ

杉戸町（6校）

運営委員会名	杉戸町放課後子供総合プラン運営委員会		
構成役職 (合計16名)	学校関係者(学校長)、放課後子供教室代表9名、放課後児童クラブ関係者、教育総務課長、社会教育課長、子育て支援課長		
検討内容	放課後子供教室の前年度実施状況、本年度実施計画について 放課後子供教室事業予算について 放課後児童クラブの開設状況について		
放課後子供教室 実施教室数	3教室	放課後児童クラブ 箇所数	7箇所
対象学区	6校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 3教室 連携型 0教室
主な対象学年	1～3年	平均開催日数	26日
総登録児童数	134人	総ボランティア数	31人
平均参加児童数	33人	平均スタッフ数	10人/教室
コーディネーター数	4人		

教室紹介

教室名	杉戸第二小学校わくわく教室	活動場所	校内わくわく教室、体育館他
参加対象	1～3年	参加者数	登録児童数 25人 1日平均参加者数 25人
活動内容	万華鏡、籐工芸、ハロウィンクッキング、粘土石鹸作り、クリスマス壁面作り、ビーズ作り、プラ板工作他		
連携団体	中央放課後児童クラブ、籐工芸サークル		
活動の成果	<p>町内の放課後子供教室は3校で「わくわく教室」の愛称のもと実施しており、3校とも、放課後児童クラブとの連携事業を行った。今年度、第二小学校では体育館での「ドッチゴール、ディスクゴルフ体験」を行った。</p> <p>教室では、コーディネーターや教育活動推進員、教育活動サポーターが主体となり、万華鏡作り、粘土石鹸作りなどの様々な工作や遊びのカリキュラムを取り入れて、事業計画を組み立て、参加児童を受け入れている。その他に、放課後児童クラブとの連携事業の企画やまちづくり出前講座の講師の協力を得ることにより、多様な体験活動を児童に提供することができた。</p>		



【七夕飾り】

思い思いの飾りつけをし、壁面に飾ったあと、それを持ち帰った。



【放課後子供教室と児童クラブの連携】

ドッチボール、フライングディスク体験

松 伏 町 (3校)

運営委員会名	金杉小学校放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計9名)	教育長、校長1名、PTA会長1名、学校応援団1名、放課後児童クラブ本部長1名、放課後子ども教室指導員2名、教育文化振興課長1名、事務局職員1名(コーディネーター)		
検討内容	放課後子ども教室の状況、放課後児童クラブとの連携、地域との連携状況、指導員の拡充		
放課後子供教室 実施教室数	1教室	放課後児童クラブ 箇所数	5箇所
対象学区	1校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 1教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	61日
総登録児童数	30人	総ボランティア数	14人
平均参加児童数	26人	平均スタッフ数	6人/教室
コーディネーター数	1人		

教室紹介

教室名	金杉小学校放課後子ども教室	活動場所	余裕教室、体育館、校庭
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 30人 1日平均参加者数 26人
活動内容	宿題、英語活動、昔の遊び、埼玉郷土かるた、スポーツ体験(ドッジビー、スナッグゴルフ、よさこいソーラン踊り)、木工教室(コースター作り)		
連携団体	ALT、学校応援団、よさこい踊り団体、埼玉土建吉川支部、		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題の時間は指導員が6つのテーブルに1人ずつつき、児童の学習を見守り、時には指導している。近くの大人にアドバイスをもらえるので取り組み状況は良い。 ・当該校配置のALTが学習活動時に英語活動を行っている。児童は活発に参加し、毎回盛況である。元気すぎて指示が通らないことがあり課題である。 ・連携団体の支援でスナッグゴルフ、よさこいソーラン踊り、木工教室(コースター作り)を行った。この活動は放課後児童クラブの希望者とともに活動し、一体型の取り組みができた。放課後児童クラブには活動をポスターで紹介し、参加希望者を募った。放課後児童クラブの指導員が引率して来場し、安全面にも配慮できた。 ・放課後子ども教室と放課後児童クラブは共にスポーツ安全保険に加入している。事故時は放課後児童クラブの保険が優先されるため、二重の保険料支払いはない。 ・田園地帯にある学校の特色から、活動終了後の帰宅に際し、保護者の迎えを必須としている。このため帰宅時における事故は起こっていない。 		



【子ども教室と児童クラブの連携】
よさこいソーラン踊り体験



【英語活動】
学校配置のALTによる英語活動体験